社会医療法人 近森会　院内広報誌

一歩先の医療、一つ先の未来。
CHIKAMORI
HEALTHCARE GROUP

ひろっぱ

Vol.484　2026.11



第32回 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)中国四国地方会 開催

表紙の写真

院内救急救命士による特定行為が始まりました!!

高校生進路発見セミナー開催

80th ANNIVERSARY
CHIKAMORI HOSPITAL

近森病院　近森リハビリテーション病院　近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

12月30日(水)～1月3日(日)は休診です。

※近森病院救命救急センターは24時間対応いたします。

第32回 日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）中国四国地方会 開催

2026年
9月5～6日
岡山
コンベンション
センター

歴代最多の447名の皆さまにお越しいただきました

会長／近森病院 循環器内科 主任部長
關 秀一 せき しゅういち



2026年9月5日～6日の2日間、第32回日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）中国四国地方会を岡山コンベンションセンターで開催し、会長を務めさせていただきました。中国四国地方を中心に多くの医師・医療関係者にご参加いただき、歴代最多となる447名の皆さまにお越しいただきました。

心臓から末梢血管まで幅広い領域の先進的な演題が揃い、2日間を通して活発な議論が展開されました。当院からは12演題を発表し、メディカルスタッフ優秀演題賞を小松千尋さん、メディカルスタッフ会長特別賞を酒井愛莉さんが受賞しました。日頃から積み重ねてきたスタッフの皆さんの努力がこのような形で評価されたことを、大変嬉しく思います。

今回のテーマは「志を継ぎ、次代を拓く：Legacy × Vision」です。先輩方が築いてこられた知識・技術、そして“患者さんを救いたい”という強い思い（Legacy）を受け継ぎ、若手医師を中心に新しい価値を創造して未来の医療を描く（Vision）という願いを込めました。本学会で得られた知識やアイデアが、日々の診療に生かされ、一人でも多くの患者さんの治療や健康につながっていくことを願っています。

最後になりましたが、開催にあたり多大なご理解とご協力を賜りました院内の皆さま、そして運営を支えてくださった関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

志を継ぎ、次代を拓く
Legacy × Vision



1



2


3


4

（写真）1.臨床検査部 心血管カテーテル室 清水室長の発表。2.受付の様子。3.質問する循環器内科 今井部長。4.メディカルスタッフ優秀演題賞 臨床検査部 小松千尋技師（左）、メディカルスタッフ会長特別賞 臨床検査部 酒井愛莉技師（右）。

12月1日～

駐車可能台数が減少します。

12月以降、駐車可能台数が26台減少します。混雑時には駐車できない場合がありますので、ご来院の際は、可能な範囲で電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。ご理解とご協力をお願いいたします。

学会受賞

第34回 日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）
特別功労賞 受賞





臨床検査部 心血管カテーテル室 室長
清水 速人 しみず はやと

このたび、第34回日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）にて、メディカルスタッフとして初めて特別功労賞を頂きました。身に余る光栄であり、全国で心臓カテーテル治療に携わるメディカルスタッフの皆様に支えていただいた結果だと、心から感じています。学会では、多職種連携の推進やタスクシフト・シェアの調整、教育企画の充実などに取り組んできましたが、こうした活動を続けられたのは、近森病院のスタッフの皆様、院長の温かいご理解のおかげです。受賞にあたり循環器の医師・メディカルスタッフの皆様が温かい会を開いてくださり、そのお気持ちが胸に深く残っています。

また、前職である倉敷中央病院では、光藤和明先生に医療者としての姿勢やチーム医療の本質をご指導いただきました。光藤先生の教えがなければ今日の私はありません。この場をお借りして深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、患者さん本位の医療を大切にしながらチーム医療に向き合ってまいります。



初期研修医 2年目 **岡村 歩紀** おかむら あゆき

2回目受賞!

第101回 中国四国外科学会総会・第31回 中国四国内視鏡外科研究会
研修医・専攻医セッション 優秀演題賞 受賞

演題 二次性大動脈十二指腸瘻に対して
心臓血管外科との合同手術を施行し治療した1例



資格取得



高血圧専門医

（前列左より）
近森病院 循環器内科 部長
今井 龍一郎 いまい りゅういちろう

近森病院 循環器内科 主任部長
關 秀一 せき しゅういち

近森病院 院長
兼 ハートセンター センター長
兼 循環器内科 特任部長
川井 和哉 かわい かずや

（後列左より）
近森病院 循環器内科
松田 英之 まつだ ひでゆき

近森病院 循環器内科
中山 拓紀 なかやま ひろき



講演会

高知医療再生機構補助金講演会　〈2026年10月2日〉

『AIフル活用で医療現場も生活も限界突破する実践アップデート ～明日から“AI前提”で働く～』

国際医療福祉大学大学院医学研究科循環器内科学教授／
国際医療福祉大学福岡薬学部教授／ねこ検定上級
岸 拓弥先生（きし たくや）





献血

ありがとうございました！

10/19

結果

- 協力者（受付者数）……60名
- うち400㎖献血ができた方……54名

血液センター様からの目標（45名）達成！





院内救急救命士による特定行為が始まりました!!

2026年9月1日～

近森病院 MC委員会 委員長／救急科 特任部長　根岸 正敏（ねぎし まさとし）



1991年に本邦で初めて救急救命士法が施行され、その後いくつかの処置拡大があり、ついに30年後の2021年に大きな改正が行われました。『業務の場』がこれまでの現場および搬送中の救急車内から、医療機関に到着してから入院するまでの間にまで拡大されたのです。当院では四国内での先駆けとして2007年から院内救急救命士を採用し、現在は11名が救急外来（ER）に勤務し、院内での救命救急処置に活躍しています。



このたびの改正を受け、院内で委員会を設置、追加での講義、実技訓練を重ねてきた結果、高知県救急医療協議会から特定行為の認定をいただきました。これにより、気管内吸引、マスクによる人工呼吸などの包括指示28項目に加えて、心肺停止傷病者に対する静脈路確保と薬剤投与、心肺停止前の重症傷病者に対する輸液、ブドウ糖の投与などの特定行為が可能になり、9月1日より救急科専従医師の直接指示・指導のもとで開始しています。

これにより医師、看護師など他職種とのタスクシフト、タスクシェアも可能となり、救急外来での患者さんへの対応がより迅速、充実したものとなると考えています。今後も知識、技術の向上に向け絶え間ない努力を重ね、迅速かつ適正な医療を提供し皆様の救命に役立てますよう精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

看護師特定行為研修 実習

11月～1月末

近森病院での実習がスタートします。
ご協力、よろしくお願いします。





▲実習に出るまでの座学の様子。

学会発表

European Society of Cardiology（ESC）Congress 2026〈2026年8月28～31日／ドイツ・ミュンヘン〉



初めての国際学会

初期研修医 2年目 山﨑 開斗 やまさき かいと

今回、循環器内科の西村先生、中山先生とともに、European Society of Cardiology（ESC）Congress 2026に参加し、学会発表を行いました。

ESCは循環器領域では世界最大級の学会で、今年はドイツ・ミュンヘンに3万人を超える循環器医が集まり、最新の知見や治療について活発な議論が行われました。国内学会の経験もまだ少ない私にとって、その規模はまさに規格外であり、参加者数や会場の大きさはもちろん、街のいたるところに学会を歓迎する広告も掲げられ、発表を前に緊張も一段と高まりました。

無事に発表を終えた後は、教会やBMW博物館を訪れ、ドイツ料理も堪能しました。そしてドイツといえばビール。街のいたるところにビアホールやテラス席があり、昼間は循環器診療について真剣に学び、夕方からはビールについて身をもって学ぶ－そんな充実した日々となりました。

今回、国際学会という大きな舞台で発表できたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。また、若手ながら世界に向けて発信されている先生方の姿からも大きな刺激を受けました。今後も目の前の臨床を大切にしながら、こうした挑戦の機会を積極的に生かしていきたいと思います。最後に、快く送り出していただいた当院循環器内科・心臓血管外科の皆様、そして約1週間の共同生活を共にしていただいた西村先生、中山先生に心より感謝申し上げます。

初期研修医 2年目 山﨑 開斗 やまさき かいと	演題	Emergency transcarotid transcatheter aortic implantation following extracorporeal cardiopulmonary resuscitation in refractory ventricular fibrillation-storm caused by very severe aortic stenosis （リハビリ中に心停止し、ECPR施行後同日に緊急TC-TAVIを行い救命できたVery severe ASの一例）
近森病院 循環器内科 西村 祐希 にしむら ゆうき	演題	Resistive reserve ratio (RRR) predicts myocardial metabolic recovery in the acute phase of Takotsubo syndrome: a pilot study （たこつぼ症候群の急性期において、抵抗予備能比（RRR）で心筋代謝の回復を予測できるか）
近森病院 循環器内科 中山 拓紀 なかやま ひろき	演題	Balancing stent thrombosis prevention and bleeding risk during combined venoarterial extracorporeal membrane oxygenation and microaxial left ventricular assist after left main bifurcation PCI （左主幹部分岐部PCI後のVA-ECMO+Impella®support下における虚血・出血リスクのバランス）





▶ 左から、西村医師、筆者、以前、近森病院へ研修に来られた聖路加国際病院の鈴木先生、当時ドイツ留学中の菅根医師、中山医師。



こうち微生物学展 開催

2026年8月15日／オーテピア高知図書館 4階



近森病院 感染症内科 部長
石田 正之 いしだ まさゆき









当院では、継続して取り組むべき課題の一つにAMR（薬剤耐性）対策を掲げています。AMR問題の解決には、医療従事者だけでなく、市民の皆さんにも正しく理解していただき、共に行動することが大切です。今回、子どもたちにもAMRを知ってもらおうと、当院企画・発案、高知県、高知県感染対策・サーベイランス研究会の協力を得て、「こうち微生物学展」を開催しました。

当日は、小・中学生とその保護者を中心に193名が来場。自分の口の中の細菌を用いたグラム染色や顕微鏡観察、原虫・寄生虫の展示、AMRを学ぶゲームなどを通して、微生物や感染症、抗菌薬について「見て・ふれて・体験しながら」楽しく学んでいただきました。子どもたちが目を輝かせて顕微鏡をのぞき、医療従事者へ質問する姿も多く見られ、盛況のうちに終了しました。

今後も、地域の皆さんと共に感染症やAMRについて学べる企画を続けてまいります。次回もぜひご参加ください。

すまいる♥ナース通信

＃認定看護師
みなさんもぜひチャレンジを



近森会グループ看護部
マスコットキャラクター モリンちゃん

近森リハビリテーション病院 3階病棟 看護師長／
感染管理特定認定看護師
岡本 真由美 おかもと まゆみ



私は高知大学医学部附属病院で認定看護師教育課程（B課程）が開講されたのを機に受講させていただき、感染管理特定認定看護師を取得しました。

感染対策は何も起こっていなければ関心が薄れがちですが、皆さんの協力があってこそ力を発揮するのが感染対策です。教育課程修了後は自分が得た知識を活かして、どうすれば感染対策に興味を持ってもらえるか考えながら発信することを心がけています。まずはリンクナース、リンクスタッフの活動の活性化に取り組み「感染対策の輪」を広げたいと考えています。

特定認定看護師の取得にあたっては苦労もありましたが、やってみることが大事だと実感しました。人脈だけでなく、学びを通してわかることが増えると、見える世界が広がり、看護人生がぐっと豊かになるのを感じました。同じ経験を多くの方にしてほしいからこそ、学ぶことに迷う方がチャンスを逃さず挑戦できるよう、後押しすることもこれからの自分の役割だと思っています。



修了式（筆者は左から2番目）。

保育室そると

絵本寄贈

一般社団法人生命保険協会 高知県協会様より絵本を寄贈いただきました。



令和8年熊本地震
JRAT
災害リハビリテーション支援チーム
派遣報告

2026年8月16～20日・26～30日


1


2

小さな環境改善が生活を支える大きな力に

近森リハビリテーション病院 院長 和田 恵美子（わだ えみこ）

令和8年熊本地震に際し、JRAT（災害リハビリテーション支援チーム）として、8月16日から20日まで医師1名、理学療法士2名、作業療法士1名が現地で活動し、8月26日から30日には理学療法士1名が後方支援に参加しました。

現地では、避難所への手すりの設置や段差の解消、支援物資の配送などを行いました。特に印象的だったのは、わずかな段差が原因で外出できなくなっていた方が、段差の解消によって再び自分の力で移動できるようになったことです。小さな環境改善が生活を支える大きな力になると実感しました。

また、災害時にはライフラインの復旧だけでなく、生活環境への配慮や、必要な支援を届けるための情報共有が重要です。

高知県が被災した際に県外からの支援を円滑に受けられるよう、高知JRATでは病院や施設の垣根を越えた連携や研修を重ね、今後も災害への備えに取り組んでいきます。


3



4



（写真）1.屋外に設置された手すりを安全に使用できるように調整。2.地震でできた段差をスロープがくるまで段ボールで修復。3.上野賢一郎厚生労働大臣の視察に対応する和田院長。4.後方支援の様子。

80周年記念事業 第7弾

地域と歩んだ80年、帯屋町に記念吊幕



◀ おもて面

裏面 ▶



近森病院は12月24日に開設80周年を迎えます。これを記念し、12月の1カ月間、病院にもほど近い帯屋町アーケードに吊幕を掲出します。

おもて面は、クリスマスで華やぐ街並みに映える赤を基調にデザイン。裏面では、「日本一働きやすい病院AWARD 2026」大賞受賞を載せています。街にお出かけの際は、ぜひご覧ください。

緩和ケア委員会主催

2026年9月6日

がん等に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（PEACE）

看護部長室 看護師長 島田 いづみ しまだ いづみ



本研修会は厚生労働省の開催指針に基づくもので、今回は外部講師にもご協力いただき、講義やグループワークを行いました。医師をはじめ多職種30名が参加し、患者さんの身体的・精神的苦痛の評価、療養場所の選択、意思決定支援などについて、前向きかつ熱心に学びました。今回の学びを日々の診療に生かし、今後も多職種で連携した緩和ケアの充実に取り組んでいきます。



第9回 近森病院附属看護学校 学園祭 開催

2026年9月11～12日







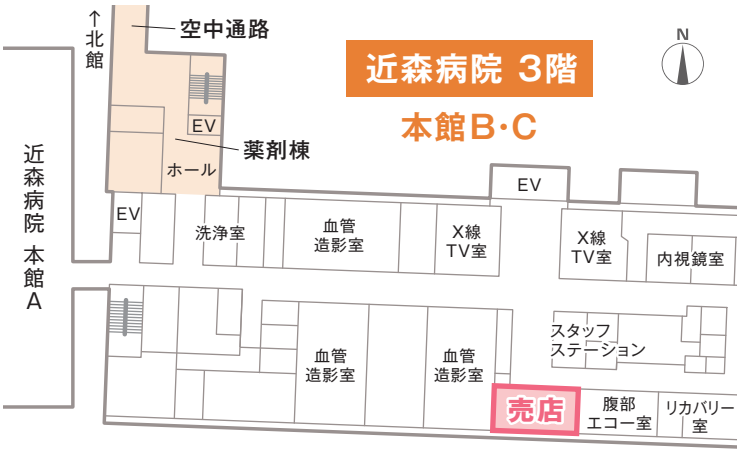
「Connected as one」をテーマにした今年は、模擬店やよさこい演舞など楽しい催しに加え、根岸副院長による前日祭特別講演会「目の前で人が倒れたら～救急医療現場から伝えたいこと～」を開催しました。



移転のお知らせ

売店が移転しました

2026年10月26日～



10月26日より、近森病院の売店が1階から3階へ移転しました。

● 営業時間
8:00～17:00

※営業時間は変更になる場合があります。

※売店の移転に伴い、1階イートインスペースは改修のためご利用いただけなくなります。

高知

医療職のリアルに触れる！

第3回 高校生進路発見セミナー in 近森病院 開催しました！

2026年8月23日











暑い夏、アツい学び。未来のヒント見つけた!?



経営企画部 部長
山崎 啓嗣 やまさき ひろつぐ

夏休み終盤の8月23日（日）。「第3回 高校生進路発見セミナーin近森病院」を開催しました。集まったのは、高校生77名と保護者19名の計96名。しかも参加者は県内各地から東は室戸、西は土佐清水まで！医療への関心の広がりを感じる1日となりました。

最初は少し緊張気味だった高校生たちも、スタッフの話に身を乗り出し、診療現場に触れて、進路の悩みを相談するうちに表情が少しずつ変化。“知っているつもり”だった医療職について、より具体的にイメージしてもらえる時間になったように感じます。

今回参加した77名の中から高知の医療をともに支える仲間が生まれるかもしれません。そんな機会を、これからも大切につくっていきたいと思います。



全14職種！

各職種のリアルなお話に興味津々



参加者の声



薬剤師になりたい！

● **参加のきっかけ**
以前病院見学に参加した際、このセミナーのことを知ってぜひ参加したいと思っていました。

● **参加してみて**
自分の進路についていろいろ知ることができて、楽しかった。参加して改めて、薬剤師になりたい！と強く思いました。



臨床検査技師になりたい！

● **参加のきっかけ**
どういう進路が良いか、大学を通じどんなことを学ぶかなどを聞きたくて参加しました。

● **参加してみて**
自分のなりたい職種しか調べていなかったので、様々な職種のことが知れてよかった。一人の患者さんに多職種が関わる近森病院の「チーム医療」が心に残っています。



福祉関係の仕事をしたい！

● **参加してみて**
介護福祉士、ソーシャルワーカー、言語聴覚士の話を聞けて、それぞれ違った特徴があることが知れたし、いろんな職種の話が聞けてよかった。

● **病院の現場見学どうだった？**
手ではなく足で開くドア、手すりなど医療機関ならではの工夫がたくさんあった。またこういったセミナーに参加したいです。

熱烈応援 昇格人事



一歩一歩、これからも

近森病院 救急科 部長
三木 俊史 みき としふみ

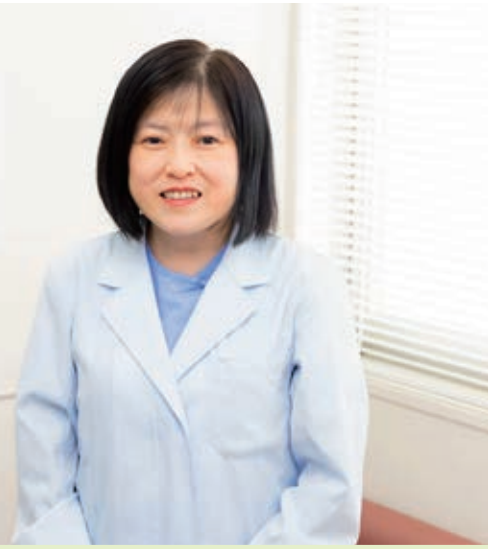


最近、歩くことが好きになりました。思えば医師になって20年あまり、ずっと走り続けてきたような気がします。けれど、歩いてみると、同じ道でもこれまでとは違った景色が見えることに気づきます。今こうして新たな役割を担えるのも、支えてくださった皆さまのおかげだと、改めて感謝しております。これからの20年も一歩一歩、歩みを進めてまいります。

【出身大学】高知大学 2005年卒業
【主に担当する疾患・手技】
救急全般、集中治療管理
【認定資格】
- 日本救急医学会 救急科専門医
- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本消化器病学会 消化器病専門医
- 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
- 日本集中治療医学会 集中治療科専門医
- 日本内科学会 認定内科医
- 日本脳卒中学会 脳卒中専門医
- 日本DMAT隊員
- 日本救急医学会 ICLSディレクター
- 日本内科学会 JMECCディレクター
- アメリカ心臓協会(AHA)認定 ACLSインストラクター
- 日本救急医学会 JATECプロバイダー
- JPTEC協議会 JPTEC プロバイダー
- AMLS プロバイダー
- BLSO プロバイダー

新たな立場で、一歩ずつ

人事部 部長代行 兼 臨床工学部 顧問
平野 友紀 ひらの ゆき



このたび、人事部 部長代行を務めることとなりました。これまで臨床工学部門をはじめ、DXやAI、職員教育、採用など、さまざまな業務に携わる中で、多くの職員の皆さんと関わる機会をいただきました。これまでの経験を活かしながら、新たな立場でも一つひとつの仕事に丁寧に向き合っていきたいと思います。

人事部門は、職員の採用や配置、教育、労務管理など、職員が安心して働くために欠かすことのできない役割を担っています。まずは人事部門の業務をしっかりと学び、職員の皆さんの声に耳を傾けながら、円滑な業務運営に努めてまいります。

まだまだ分からないことも多く、周囲の皆さんに教えていただくことも多いと思いますが、これまで関わってきた現場の経験も大切にしながら、少しでも職員の皆さんや法人のお役に立てるよう努めていきたいと思います。今後ともご指導、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

New face ニューフェイス

❶所属 ❷出身地 ❸最終出身校 ❹卒業年次 ❺趣味など

楠目 宝大 くすめ たかひろ



❶循環器内科医師
❷京都市 ❸高知大学 ❹2012年
❺好奇心旺盛で、学生時代はセーリングや囲碁、ピアノなどに親しんできました。最近は家族旅行が楽しみです。

髙熊 朗 たかくま あきら



❶循環器内科医師
❷神奈川県
❸横浜市立大学
❹2022年
❺ランニングやサイクリング、ウェイトトレーニングなどで体を動かすことは好きです。

細川 雄慎 ほそかわ ゆうま



❶脳神経外科医師
❷高知県
❸高知大学
❹2016年
❺できる限り早く仕事に慣れたいと思います。

岡村 香里奈 おかむら かりな



❶皮膚科医師
❷高知市
❸高知大学
❹2023年
❺学生時代は硬式テニス部に所属しており体を動かすことが好きです。



縁を力に、次の一歩へ

臨床工学部 部長　長尾 進一郎（ながお しんいちろう）

このたび、臨床工学部 部長を拝命いたしました。

2003年に近森病院へ入職し、2005年より急性期CEに配属となって以来、20年以上にわたり急性期医療の現場で経験を積んでまいりました。振り返れば、ここまで歩んでこられたのは、患者さんや諸先輩方、医師、看護師をはじめ、多くの方々との出会いと支えがあってこそだと感じています。

臨床工学技士の仕事は、多職種がそれぞれの専門性を持ち寄り、支え合うことで成り立っています。部長という責任ある立場を拝命し、身の引き締まる思いですが、これまでと変わらず自らの足元を見つめ、一つひとつの仕事を丁寧に積み重ねていきたいと思います。また、これまで培ってきた経験を次の世代へつなぐことも、これからの大切な役割だと考えています。

これまでのご縁に感謝し、スタッフ一人ひとりが誇りを持って働ける臨床工学部を、仲間とともに築いてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

昨日より、ちょっと良く。

臨床工学部 副部長
西村 哲（にしむら さとし）



10月1日より臨床工学部 副部長を拝命しました。これまで、さまざまな職種、関連企業の皆さまとの関わりを通して、多くのことを学ばせていただきました。日々の仕事の中で“気づき”を大切に、工夫と改善を積み重ねながら、昨日より少しでも良い仕事につなげていきたいと思います。これからも感謝を忘れず、一歩ずつ取り組んでまいります。

力をつなぐ役割に

臨床栄養部 科長補佐
関 香代（せき かよ）



このたび、科長補佐を拝命しました。これまで多くのスタッフや他職種と関わる中で、一人ひとりの得意なことや気づきを生かすことの大切さを感じてきました。これまでの経験を生かし、皆さんの声を大切にしながら、より良い職場づくりと、患者さんへのより良い栄養管理につなげられるよう努めてまいります。

ハッスル研修医

初期研修4分の1を終えて

初期研修医 1年目　中川 陽貴（なかがわ ようき）



カレンダーを見直すと、2年間しかない初期研修も半年が経過したのかと大変驚きました。入職時の自分と比べて、どこまで成長できたのか日々悩みつつ、研修に臨んでいます。

指導医の先生方にご教授いただく中で、自分の知識不足や技術不足を痛感し続けています。将来自分が先生方のように指導する立場になった時、先生方のような知識や技術を身につけた医師となれるよう、全力で研修と勉強を続けて参ります。

また、コメディカルの方々には日々本当にお世話になっております。今後も何かございましたら、その際はいつでもPHSにかけてください。

まだまだ未熟ですが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます!

今年の職員旅行が始まりました!
皆さんの笑顔のひとときをレポートします。

2026年度 職員旅行





2026年
9月
5~6日

岡山鷲羽山(風籠泊) 2班

12ページ「ぶらり旅」の問いの答え：世界の産銀量の約3分の1を産出し、「灰吹き法」により良質な銀を大量に生産していました。

リレーエッセイ

今年の夏休み



近森リハビリテーション病院 6階病棟 看護師主任
岩佐 和佳子 いわさ わかこ

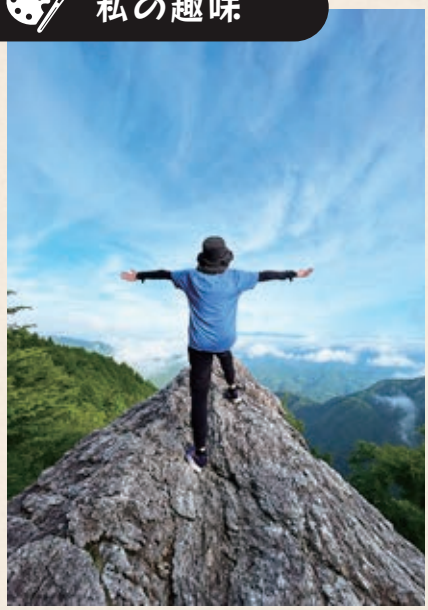


子ども(息子)たちが小さい頃は美術館や企画展、イベントへ家族揃ってよく行きましたが、思春期を迎えた今では部活の送迎以外では、買い物にも一緒に行ってくれません。でも、今年の夏休みは久々に一緒に過ごす時間ができました。

タローマン万博に水族館、ジミー大西展…。私と同じものを見て「これいいね」と共感する長男。「興味ない」なんて言いながらも、静かに自分のペースで楽しむ次男。楽しそうな2人の姿を見ていて、思わず嬉しくなりました。

息子たちの成長と共に、どうしても学校や友達との時間が優先になるので、今後はますます一緒に過ごせる時間も少なくなっていくと思います。少し寂しくなりますが"今度の休みはどこかへ一緒に行ってくれるかなぁ?"と、楽しみにしています。

私の趣味



自分時間を楽しむ



総合心療センター外来 看護師主任 溝依 百世
みぞより ももよ

以前は友人とマラソン大会に出ることもありましたが、これまでほとんど趣味らしい趣味を持たずに生活してきました。子どもたちが社会人になり、急に自分の時間が増え「何をして過ごそう?」と考えていた頃、就職以来の友人(同期)に誘われて始めたのが山登りです。早朝から登り頂上で日の出を眺め、自炊した朝食を食べる時間が今では楽しみの一つです。日の出に間に合わないこともありますが、それもまた笑い話になります。登りながら、たわいもない話やこれからのことを話す時間も大切なひとときです。



今年からは、その友人に誘われて週1回のヨガにも通い始めました。また、気になるアーティストのライブが近場であると、娘や友人と出かけるのも楽しみです。5月には娘と2人で大阪へ旅行がてらback numberのライブへ参戦しました。これからも新しいことに挑戦し、自分の時間を楽しんでいきたいと思います。

FREE 私の〇〇(まるまる) 〇〇にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「マラソン」



四国管財株式会社
川嶋 稜 氏
かわしま りょう





私にとってマラソンとは、自分自身への挑戦。幼い頃から走ることが好きで、25歳の時に初めて「高知龍馬マラソン」へチャレンジしたのが私のマラソンの始まりでした。現在まで「高知龍馬マラソン」へは計6回出場しています。

練習は涼しくなってくる毎年9月～10月頃からスタートします。大会が2月なので、5～6ヶ月かけて徐々に仕上げていきます。最初は1km～2kmからスタートし、2ヶ月で10km、3ヶ月で20km、といった具合に一回で走り切れる距離を少しずつ伸ばしていきます。

練習コースは様々ですが、オススメ出来るのはあけぼの街道です。信号が少なく、歩道も広めなので安全に走りやすいのと、布師田で大きい橋が2つありアップダウンがあるので良いトレーニングになります。周りの景色も気持ち良いです。

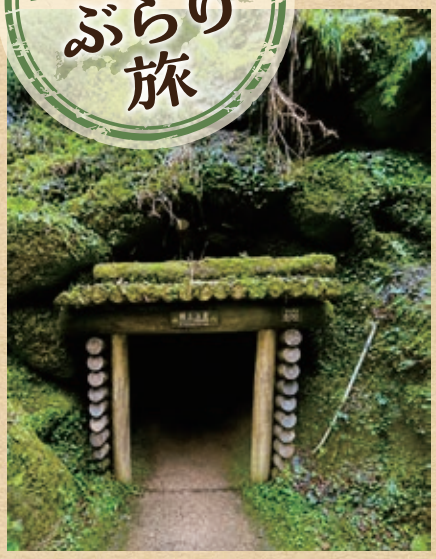
人の体の衰えは足から来るといわれています。筋力トレーニングも行っていますが、走ることも継続的に行い、10年後、20年後も健康的な身体を保ちたいです。

近森相談役の ぶらり旅

世界遺産 石見銀山（いわみぎんざん） 大森銀山重要伝統的建造物群保存地区

11月上旬、美肌の湯として有名な玉造温泉に1泊して、紅葉のはじまった石見銀山にぶらりと行ってきました。かつて銀を採掘していた龍源寺間歩（まぶ）（坑道跡）には当時入れず残念でしたが※、江戸時代にタイムスリップしたかのような懐かしい大森の町をのんびり散策してきました。（※現在は公開されています。）

ちなみに、石見銀山の最盛期には世界の産銀量のどれ位を産出していたでしょうか？（答えは10ページの下）



▲ 龍源寺間歩入口



▲ ノミ跡の残る坑道跡。



▲ 代官所跡



▲ 城上神社拝殿の鏡天井「鳴き龍」、拍手で共鳴します。



◀ 羅漢寺、五百羅漢。昔、銀山で働いて亡くなった人々の霊を供養するため、左右の石窟に各々250体の石仏が安置されている。



▶ オペラハウス大森座で行われた奥様のマリンバコンサートについて来られていた明神先生とバッタリ。

看護学校通信

退院のその先へ、生活に寄り添う看護を
～グローカルプロジェクトでの学びと新たな決意～

近森病院附属看護学校 3年生　中川 千夏子（なかがわ ちかこ）

実習と結びつけて取り組んだグローカルプロジェクトでは、架空の人物を設定し、その人らしい生活を実現するために必要な支援を考えることにチャレンジしました。地域の特徴や資源を活かし、その地域ならではの支援を考えることで、対象者を生活者として捉える視点を深めることができました。公開プレゼンテーション当日は実習施設の方々も参加してくださり、温かいコメントを多数いただきました。今後も疾患だけで判断せず、その人の強みや思いを大切にし、退院後も続いていく生活を見据えた看護を実践していきたいと思います。





編集室通信

12月24日、近森病院は開設80周年。記念すべき次号の人物ルポには、なんと近森相談役が登場します。どんなお話が飛び出すのか、今から楽しみで仕方ありません！　彬

診療数
2026年9月
―― 電子カルテ管理課 ――

● 近森会グループ

外来患者数	16,940人
新入院患者数	1,107人
退院患者数	1,085人

● 近森病院（急性期）

平均在院日数	11.45日
地域医療支援病院 紹介率	101.98%
地域医療支援病院 逆紹介率	351.59%
救急車搬入件数	584件
うち入院件数	335件
手術件数	600件
うち手術室実施	365件
うち全身麻酔件数	257件

人物ルポ Reportage
Vol.411



ありのままに 楽しみ上手 聴き上手

三浦有華
Yuka Miura

近森病院 医療福祉部
ソーシャルワーカー
社会福祉士 介護福祉士

聞き手／ひろっぱ編集部

「おもしろいことが言えるか心配で…」と、照れながら取材の席に着いた、ソーシャルワーカーの三浦さん。2年前に近森病院へ移り、今年度から新人の教育担当を任されている。「患者さんとの面接の進め方などを一緒に考え、終われば2人で振り返ったり…。大変ですけど楽しいです」と、まっすぐに言う。「仕事が楽しい」と迷いなく口にできる人は、多くはない。前向きな考え方にがぜん興味が湧いた。

逆再生キャリアの16年

ソーシャルワーカーは、患者さんやご家族の生活上の不安や困りごとについて相談に応じる専門職。退院後の生活や療養先の調整、福祉制度の活用など、医療と暮らしをつなぐ役割を担う。入職後の5年間は、高知市から委託を受けていた障害者相談支援センターで、障害のある方の地域生活を支援。その後、近森リハビリテーション病院で約10年を過ごし近森病院の急性期へ。急性期からキャリアを始める人が多い中、地域→回復期→急性期と辿った道のりを「私は逆再生なんです」と表現する。

最初に退院後の暮らしを見てきたからこそ、支援の先が思い描ける。一方で、回復期にいた頃は見えにくかった急性期の事情も、実際に身を置くことで理解が深まった。それぞれの現場を経験した今、各ステージの役割や事情を踏まえた引き継ぎを大切にしている。「今どこまでできて、次でどんな支援をお願いしたいのかを伝えるように心がけています」と、言葉を探しながら話してくれた。



▼この日は同僚のSWらと食事へ。所属する医療福祉部は、三浦さんにとって安心する場所になっている。



一服のお茶と、一杯のコーヒー

プライベートでは、裏千家の茶道をたしなむ。「茶道では、重きを軽く、軽きを重く扱いなさいと教わります。お稽古中は頭がいっぱいです」。茶道の奥深さを伝える言葉選びも、とても分かりやすい。

また、自宅周辺にはケーキ屋さんが多いらしく、「今度はあそこのケーキにしよう」とにっこり。そのケーキを、豆から挽いたコーヒーとともに頂く時間は自分へのご褒美。「同僚とも食事に行くプランをよく立てます」と、自分で楽しい予定を作ってそこへ向けてがんばることが元気の源のようだ。

正解よりも大切なこと

取材前にお渡ししたアンケートの質問を、同僚や先輩と「これってどういう意味？」と考え合ったという。言葉の裏まで考えてしまうのは職業病だと笑う。仕事でも、一人で答えを出すのではなく、仲間と考え解決の糸口を見つけているのだろう。

仕事で大切にしているのは、決めつけないで話を聞くことと、結論に至るまでの過程だという。退院先が本人の希望通りにならないこともある。だからこそ、そこに辿り着くまでの過程を大事にしたい。泣き続けるご家族のそばで、黙って座っていただけなのに「ありがとう」と言われた時、「いるだけで良かったんだ」と思うことができた。何かを解決するだけが支援ではない。ただ寄り添い思いを受け止めることにも意味がある。子どもの頃は人見知りで怖がりだったが、今は相手が怒っていても「なぜだろう」と落ち着いて考え、話を聞く。

「大きく変わらなくていいんです。ベースは今のままで、少しずつ成長したい」。仲間に恵まれ、患者さんのために働ける日々を楽しいと言える。自分のためにおいしいコーヒーを、相手のために点てる一服を。人の思いに寄り添いながら、自分の楽しみも大切にする。さあ、今日はどんな楽しみを見つけよう。

目指せ100歳！大好きなおばあちゃん

月に2回は、96歳の祖母に会いに実家へ。「祖母は忙しく働く母に代わり育ててくれた第二のお母さん」。心臓の手術や大腿骨骨折後のリハビリなどで近森会にもお世話になったのだそう。



社会医療法人 近森会　院内広報誌 ひろっぱ 11月号 Vol.484
発行日　2026年10月25日　発行者：近森 正幸／事務局：寺田 文彦
高知市大川筋一丁目1-16　TEL.088-822-5231
https://www.chikamori.com/
ホームページ　Facebook　Instagram